

おむすびシート

～市民のみなさまとおのでら健をむすぶおむすびシート～

市民のみなさまの声を!! つなぎます

お気軽にFAXください



FAX 022-702-3967

●生活している上でおこまりのことありませんか。(具体的に書いていただくと助かります)

●市議会について伺います ※いずれかに○をつけてください

- | | | | |
|---|------------------|-------------------------------|--------------|
| 1. 市議会に関心がありますか | YES NO | 8. 市議会だよりを読んでいますか | YES NO |
| 2. 現在の市議会をどの様に評価しますか | 評価する 評価しない わからない | 9. 市議会だより以外で議会に関する情報収集をしていますか | YES NO |
| 3. 市議会議員に自分の意見や要望を伝えていますか | YES NO | 10. 市議会ではどのような改革が必要だと思いますか | |
| 4. あなたの意見や市民の声が市議会に反映されていると思いますか | YES NO | ・議会の審査機能の向上 | ・議員定数の削減 |
| 5. 市政等について意見や要望がある場合に
請願や陳情を市議会に提出できることをしていますか | YES NO | ・報酬・政務活動費の見直し | ・市民が傍聴しやすい議会 |
| 6. 市議会の会議を傍聴したことがありますか | YES NO | ・市民の声が反映できる懇親会や意向調査を行う | |
| 7. 市議会を夜間や休日に開催すれば傍聴しますか | YES NO | ・市議会ホームページの充実など | ・情報発信力の強化 |
| | | ・新聞広告や議員だよりの発行回数ふやす | ・その他 |
| | | 11. 市議会に何を期待しますか。自由にお書きください | |

お名前 _____ TEL _____
 _____ FAX _____
 _____ MAIL _____

ご住所 _____

仙台市議会

令和5年
特別号

仙台市議会議員
(泉区)

おのでら健

新型コロナウイルスで陽性と診断された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

また医療従事者をはじめ支援にあたられている方々に感謝と御礼を申し上げます。私はこの困難が一刻も早く終息することを切に願っています。

この間、おのでら健は市議会議員としてコロナ対策に仙台市職員のみならずと連携しながら市民のみなさんの生活に影響が少しでも緩和されるよう市当局に求めてきました。私に今何ができるのか、自問しながら走ってきたところです。もとより、私たちはいろいろなリスク(危険)に囲まれて生活しています。そのため、私たちは一定の割合で起こる、また想定されるリスクに対して準備を行います。

いわば、平時に有時の備え、ということになります。このリスクへの対処は、通常、個人を家族が支え、地域が支え、職場が支えるなどのコミュニティが行い、それら個人やコミュニティを自治体が支えるという重層的な仕組みとなっています。しかしながら、社会の諸変化によりコミュニティの機能・地域力が弱まっています。

おのでら健は、**コミュニティの機能・地域力が弱まっているなかで安全と安心をもち暮らせる社会の共同性をどう構築していくのか**、今回の新型コロナウイルスに向けた政策や取り組みのなかで**「生命」を支える、「生活」を支える、「雇用」を支えるなど、人びとが安全と安心をもって暮らせる対策をどのようにうっていくのか**が政治・市政の喫緊の課題だと思っています。市民のみなさん、安心して暮らせる社会へいっしょにこの難関を乗り越えていきましょう。ご指導よろしくお願致します。

◎令和4年10月3日決算審査等特別委員会全体会 おのでら健質疑

以下、質問・答弁の概要です。少し長くなりますがお読みいただければ幸いです

就職氷河期対策

●決算年度、私、小野寺健、50歳になりました。私の世代は、団塊ジュニア世代と言われたり、就職氷河期世代と言われたり、ロスジェネ世代とも言われています。出身中学校の同学年のところを回りますと、もうそこには住んでいなかったり、お父さん、お母さんのうちどちらかが亡くなっていたり、また介護でへとへとになっていたり、結婚してなくて独身で一人そこに住んでいたりと様々でございます。人生の縮図をかいま見るような思いです。突然ですが、郡市長に伺いたいと思います。私たちの世代、団塊ジュニア世代、就職氷河期世代、ロスジェネ世代と聞いて、どのような印象を持たれますか。(小野寺)

▲お示しの世代の皆様方は、1990年代から2000年代の前半にかけてのバブルの崩壊、あるいは世界的な大恐慌など、金融危機の影響などで厳しい就職環境に直面した方々でして、非正規雇用の皆様方の割合が多いなど、雇用の安定といった面でも課題があると認識しています。現在、国においても、就職氷河期世代の支援を推進するプラットフォームを構築して、国を挙げて各般の取組を行っているところでして、本市としましても、安定した雇用環境が確保されますよう、国や関係機関と連携した取組を進めてまいります。(郡市長)



●少し世代について見ていきたいと思います。50歳の私、小野寺健の少し上の世代の方々は**バブル世代**と言われ1965年(昭和40年)から1969年(昭和44年)頃生まれの方で、現在53歳から57歳の方です。

この世代の方々は、日本がバブル景気に沸いた企業の大量採用期に社会人となっていて、24時間戦えますかと高らかに歌う栄養ドリンク剤のテレビコマーシャルが大ヒットした世代であります。

長時間労働に疑問を持たず、接待会食、接待ゴルフ、接待マージャンなど、勤務時間外も仕事の付き合いで縛られるのが当たり前のこととして受け入れられていた時代です。

また、1986年(昭和61年)に男女雇用機会均等法が施行されていて、高校、短大を出て就職し、専退社をするのが一般的だった女性のライフコースに、4年制大学を出て男性と同じように働く選択肢が加わった世代です。

次にですが、**就職氷河期世代**です。これは1971年(昭和46年)から1982年(昭和57年)頃生まれの現在51歳から40歳までの方々で、団塊ジュニアの世代を含みます。

この就職氷河期という言葉は、リクルート社の雑誌、就職ジャーナルが1992年(平成4年)11月号で初めて出していて、1994年の新語・流行語大賞で審査員特選造語賞を受賞しております。失われた世代、ロスジェネレーションとも呼ばれていて、バブル経済がはじけて、長期の景気後退局面へ突入して、企業が求人をつめたために正規社員として就職できず、契約や派遣などの非正規の仕事しか得られなかった人が多い世代です。運よく正社員として就職できた人も、入社早々から業績悪化、経費削減、リストラの波にもまれたために、危機意識が強くある世代と言われてます。

次は、**ゆとり世代**です。1987年(昭和62年)から2004年(平成16年)生まれの方で、現在35歳から18歳までの方々です。また、Z世代、1995年(平成7年)から2010年(平成22年)生まれの27歳から12歳までの方々も一部オーバーラップします。

この世代は、授業時間数の削減など、詰め込み教育からゆとり教育への転換が図られた時代に学齢期を過ごしていて、深夜まで働いて残業代を稼ぐよりもワーク・ライフ・バランスを重視、飲みに行くその誘いをきっぱり断ることができたり、ブランドのバッグが欲しい、カッコいい車に乗りたいたいなど、バブル世代が縛られている物欲から解放されていて、学生時代からスマートフォンを使いこなして、SNSを駆使して横のつながりや共感を大切に。俺が俺がと自己主張して生き残ってきたバブル世代には物足りなく映る世代です。

今まで例示いたしましたけれども、現況これら世代の方々が仙台市で働き、生活し、子育てを行っている主なメンバーです。

そこで伺いますのは、まず**仙台市総合計画**において、この**世代の方々をどのように捉え、議論し、計画に反映していったのか**。(小野寺)

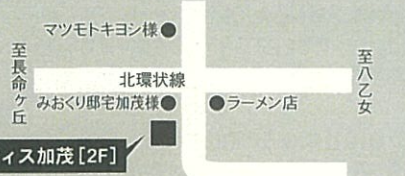
▲基本計画の策定にあたりましては、特定の世代に焦点をあてたという形の議論ではなく、本市の人口構造や社会環境、生活環境全体の変化なども踏まえながら、幅広く議論を進めてきました。

そういう中で、基本計画では、目指す都市の姿として、多様性の尊重を重要な要素として掲げまして、様々な環境の中にありまして、困難に直面する方も含め、全ての市民の皆様が主体的に活躍できるような都市環境づくり、これを方向性の一つとして位置づけたところです。

このような考え方に基きまして、具体的な取組につきましては、実施計画や毎年度の予算の中で必要な施策を検討しているという考えです。(梅内まちづくり政策局長)

おむすびシートとも「これからもみなさんの想いと市政をしっかりとつなぎます」

声をつなぐ 人と人をつなぐ 地域をつなぐ



仙台市議会 市民フォーラム仙台
加茂 事務所

【連絡先】
 〒981-3122
 仙台市泉区加茂1-47-2-202
 FAX 022-702-3967
 E-mail: onoken0329@yahoo.co.jp

オフィス加茂 [2F]

●就職氷河期世代について質問していきます。
ここ数年、雇用に改善していると言われますけれども、これまで恩恵を受けていない方々がこの世代でありまして、アラフォークライシスとも言われていますが、これは自己責任では片づけられないと思います。
この世代があと数十年で低年金、無貯蓄の高齢者になりかねず、これは喫緊の課題です。

この点は、先ほどお話しした同級生を訪問したときに多くの方々から出てきた心配でありまして、その他いろんな場面でも相談されます。
就職氷河期世代の皆さんの不安は、私だけでなく、ここにおられる多くの同僚議員のところに声として届いていると思います。
国も、誰一人取り残さない社会の実現を掲げています。

経済、雇用情勢の急激な変化に翻弄された不遇の世代的非正規雇用者に対する雇用、就労支援策のさらなる強化を早急に図るべきだと思います。
そこでまず、就職氷河期世代について、仙台市における人数、就労状況、正規か非正規かなどの就労形態、いわゆるひきこもりと言われる方々の生活実態等を御担当のように把握されているのか、伺います。(小野寺)

▲就職氷河期世代の就労状況等についてお答えします。
平成29年に実施された国の就業構造基本調査によりますと、本市における40歳から49歳の人数は約17万人で、そのうち就業者は約14万人となっています。さらに、その中に非正規雇用の方が約4万人いますが、そのうち正規雇用の仕事がないため現在の仕事に就いているという方は約1万4000人です。(商業・雇用支援課長)

▲平成28年に、本市の民生委員児童委員の皆様を対象に実施いたしましたアンケート調査で把握された558名のひきこもりの方のうち、年齢別には就職氷河期世代にあたります40代前半の方が90名と最も多く、30代後半から50代前半の方で全体の半数以上を占めているところですが、ひきこもりに至った経緯といたしましては、就職したが失業したが最も多く、次いで就職できなかったとなっていることから、就労でのつまずきがひきこもりのきっかけとなるケースも多いものと捉えています。(障害者支援課長)

●決算年度、厚生労働省が行った令和3年賃金構造基本統計調査によると、40代後半の月収の中央値は31万4500円、手取りでは24万円ほど、また20万円に満たない方々は全体の12.6%、8人に1人は50歳を前に手取り16万円ほどで暮らしているようです。全国調査ですから、地域によってはもっと厳しい状況が出てくるのではないかと考えます。
先ほどお答えいただきましたけれども、仙台市において就職氷河期世代の生活実態を詳しく把握することは、施策実施のために不可欠と言えます。(小野寺)

早期に詳細な調査を行うべきだと思いますが、いかがか。

▲就業状況につきましては、5年ごとに国が実施する就業構造基本調査の最新の調査が今年10月1日を基準日として実施され、来年7月以降、市町村の内訳を含め、順次結果が公表される予定となっています。
本市といたしましては、この調査から得られる最新の情報に加え、宮城労働局等の関係機関で構成されるみやぎ就職氷河期世代活躍支援プラットフォームでの意見交換など、様々な機会を捉えて情報収集を行い、今後の就職氷河期世代への支援に生かしてまいります。(商業・雇用支援課長)

▲ひきこもりに関してです。就職氷河期世代を含め、ひきこもりの方への支援を効果的に進めていくためには、支援を必要とされている方がどの程度なのかなどについて具体的に把握していくことが重要であると考えています。先ほどお答えいたしました前回の調査から一定期間経過し、ひきこもりの方の生活状況などに関しても様々な変化があるものと捉えており、新たな調査の実施に向けて、御本人や御家族への効果的なアプローチの在り方、その手法などについて検討してまいります。(障害者支援課長)

●ちょっと一つだけ違和感があって、ここからはちょっと外れますけれども、ひきこもりは障がい者なのかという、私ちょっとそこは違和感があって、仙台市で担当している部局がここでのいいのかなと思うんです。ひきこもりイコール障がい者支援なんでしょうか、そこは違うと、改善すべき。(小野寺)

●全国調査で8人に1人が50歳前後で収入手取りが16万円、これだけで1か月生活するんですから大変な状況になっています。先ほどからお示していますように、就職氷河期、この世代の年長の方は今51歳になっています。
この世代の方々は今現在、そしてこれから10年、20年、30年経過していく中で、これから何が起きるのか。私たちは今から手だてを打っていかねばいけないと思います。

そこで、議論を進める上で伺いたいたのですが、現況、仙台市の非課税者数はどれくらいあるのか、また、それは人口の約何割くらいにあたるのか。当局としては10年後、どれくらいの方々为非課税者数になっていると想定しているのか、お答えいただきたいと思います。
なぜお聞きするかというと、当たり前のことですけれども、非課税者数が増えることと税金が見込めないわけで、非課税者数の増加は本市の市政運営をより困難にするという考えに基づいて質問をさせていただきたいと思います。この点を伺いたい。(小野寺)

▲個人市民税が課税されていない方の数、これは働いていない子供や高齢者も含まれる数字となりますけれども、直近のデータでは約52万人となっております。
本市人口全体の約48.6%となっています。
10年後の非課税者数についてですが、人口動態のほか社会経済情勢の影響などもありまして、見込むことは難しいところでございます。(市民税企画課長)

●就職氷河期世代にはずっと浮上できず、もがいている方がたくさんいます。
就職氷河期、就職活動は困難を極めました。学校卒業時、有効求人倍率は1を上回ることなく、大学卒業者であつても1万人以上が一時的な仕事、つまりパートやアルバイトに就いていて、特に2000年から2003年にかけては、その数は2万人を超え、大学の就職内定率も91%から92%と非常に厳しい状況でした。
いずれ景気がよくなると期待して、非正規社員として社会生活をスタートしたものの、雇用環境がよくなった頃にはマネジメント経験が問われる年齢に差し加わり、どうしてもキャリア的に見劣りするため、非正規雇用から抜け出せずに今日に至るというパターンが実に多く見られます。
私が地域でお話ししたところ認識で、出身中学校の同級生の4割近くは非正規雇用の状況で、これは全国的に変わらない状況だと思います。

令和元年に策定された厚生労働省の就職氷河期世代活躍支援プランでも、この世代には不安定な就労、無業の状態、職がない状態にある方が一定数おり、そのような方々については不安定な就労状態にあるため収入が低く、将来にわたる生活基盤やセーフティネットが脆弱といった課題を抱えていると指摘されています。

国においても危機感を持っていて、就職氷河期世代活躍支援プランなどにより、令和元年から3年をかけて集中的に施策展開を行っていきたくも、仙台市においてはどのような事業が行われているのか。(小野寺)

▲本市では、国のプランに基づき、昨年度より就職氷河期世代就職支援事業を実施しているところですが、具体的には、36歳以上51歳以下で、正規雇用を希望しながら非正規雇用として働いている求職者などを対象に、就職に関する個別相談や企業とのマッチングなどの支援を行っています。(商業・雇用支援課長)

●具体的に仙台市で行っている事業、仙台市就職氷河期世代就職支援事業についてお尋ねします。

令和3年度の決算額、事業内容、相談件数、実際に正規雇用につながった人数などをお示しいたください。(小野寺)

▲令和3年度の決算額は約1500万円であり、御登録いただいた支援希望者に対して、個別相談や履歴書の作成、面接対策などのスキルアップ研修、求人企業とのマッチングイベント等を実施しました。
また、登録いただいた97名のうち、希望のあった52名の方に対し、延べ153回の個別相談を実施いたしました。こうした取組により、13名の方の正規雇用につながったところです。(商業・雇用支援課長)

●これには問題意識を持っていて、これはこのままではないです。1500万円予算を組んでいて、経済局自ら事業をする自主事業ではなくて外部に委託しているんですね。言わば丸投げしているわけです。
先ほどお答えしていただいた相談件数、実際正規雇用につながった人数も考えられる、想定される仙台市内の対象人数とはあまりにもかけ離れていて、事業成果としてこの程度でいいのでしょうか。まず、担当課はこの結果で恥ずかしいですか、認識を伺いたい。(小野寺)

▲専門的ノウハウを持つ事業者への委託により実施することで、求職者一人一人に寄り添ったきめ細やかな丁寧なサポートが可能となり、利用者の方々には支援内容に御満足していただいているものと認識しています。
今後につきましては、より多くの就職氷河期世代の方に事業を御利用いただき、正規雇用につなげていく必要があるものと考えています。(商業・雇用支援課長)

●加速する日本の少子高齢化は、就職氷河期、とりわけ団塊ジュニアを無視してきたことのツケかもしれません。
仙台市において、人口構成を人口ピラミッドで例えるとどうでしょうか。ボリュームゾーンが団塊の世代で一つ、団塊ジュニアでも一つあるのであれば、その下にも一つ一つの膨らみがあつていはずです。
しかし、実際には存在していません。その理由は、団塊ジュニアの世代は低収入がゆえに結婚できなかった、子供のことまで考えられなかったから。
日本の社会は、生まれ年が一年違うだけで、得する世代と損する世代の明暗がわかれる世代間の断層がいくつもあります。世代間の違いが如実に表れるのが結婚ではないでしょうか。多様性の中で結婚だけが全てではないということではありますが、ことさらこの問題を考えていくためには、結婚ということを選ばない方にはいきません。

結婚適齢期である30歳から34歳時点での結婚率を見ると、現在60歳以上は7割から8割、バブル世代である現在50歳から54歳も7割近くをキープしています。ところが、バブル世代より一つ下である団塊ジュニア世代の結婚率は6割を割り込み、それより下の世代は5割程度となっています。
私は、都道府県別、男女別の未婚率を、当時の所得水準や就業状況によって説明できるのではないかと考えていますが、当局はどのように認識されているでしょうか。団塊ジュニアより下の世代は、結婚を選択しなくなったのではなく、結婚できなかったのではないかと。仙台市においてこの状況をどのように認識しているのか、伺いたい。(小野寺)

▲令和4年版の男女共同参画白書によりますと、20代、30代の独身男女が結婚しない理由といたしましては、結婚に縛られたくないとの回答が男女とも最上位となっていますが、一方で、結婚するほど好きな人に巡り会っていないですとか、経済力や仕事の不安定さといった回答も多くなっています。このようなことが若い方の結婚を妨げている理由として上げられるものと捉えています。
本市におきまして、婚姻件数は減少傾向にございまして、この要因として、結婚に対する考え方やライフスタイルの変化により結婚を選択しないということと併せて、所得水準や就業形態等の経済的理由で、出会いの機会の減少などによりまして結婚ができないという事情もあるものと考えています。(子供未来局総務課長)

●就職氷河期世代が直面する課題や困難は、我が国全体の今後の社会基盤と経済の安定的運営を脅かします。
就職氷河期世代が抱える先々の問題が顕在化する時期とその影響を踏まえ、残された時間はあまりなく、仙台市にとっても喫緊な課題であり、対応、対策が必要であります。
仙台市でできることは何か、まず組織の中に対応する部署、専任の職員を配置していただきたい。
また、長年厳しい雇用環境に置かれ、安定した雇用に就くことが難しかった方々に、就職支援をはじめ、職員訓練であったり、住宅問題であったり、ひきこもり親の会合の問題のある中で、当局が一一人一人に思いを寄せ、寄り添っていただくこと、できることからスピード感を持ち問題解決のために対応していただくことが肝要だと考えます。

最後に、郡市長に所見を伺いまして、私の質問を終わりたいと思います。(小野寺)

▲就職氷河期世代の皆様方に対しましては、国を挙げて支援施策を展開しておりまして、本市といたしましては、正規雇用を後押しする就職支援や生活困窮者への自立支援などに取り組んできたところです。
委員がもっと深刻に捉えて対応すべきという意見をいただきました。お一人お一人に寄り添いながら、生き生きと働き、そしてまた暮らししていくことのできる環境を構築することは、御本人はもとより、地域経済の活性化をはじめ、本市にとっても大変重要な課題であると、このように認識をいたします。
ですから、今後とも、就職氷河期世代の方々への状況、それからニーズなどの把握に努めながら、全庁挙げてかつスピード感を持って取り組んでまいります。(郡市長)

プロフィール

1972(昭和47)年3月29日 仙台市に生まれる。AB型。50歳。

- 学歴
泉市立加茂小学校(5期生)卒業
泉市立加茂中学校(6期生)卒業
仙台高等学校(42期生)卒業
大阪芸術大学芸術学部(学士)卒業
宮城大学大学院事業構想学研究所(修士)修了
東北大学大学院工学研究科博士後課程退学

- 職歴
株式会社藤崎に入社し社会生活をスタート。
会社役員、NPO法人理事を経て仙台市議会議員(平成19年初当選。
平成23年・平成27年・令和元年再選)。

- 家族
母(主婦)・妹(会社員)(加茂地区在住)
妻(公務員)・長女(小学6年生)・長男(小学4年生)
(泉パークタウン在住) 令和5年1月1日現在

愛する仙台のため日々頑張ります。これからもよろしくお願ひします。

